

市町村議会議員特別セミナー (5月8日～5月9日)

5月8日、9日の2日間の日程で、令和5年度第1回「市町村議会議員特別セミナー」を開催し、全国各地から86人の市町村議会議員の皆様にご参加いただきました。

初日は、まず、「自治体議会改革にいま必要なもの」と題して、法政大学総長・法学部教授の廣瀬克哉氏から、ポストコロナの議会運営、統一地方選挙における実情、コロナ前から持ち越されている議会改革の課題等についてご講演いただきました。参加者からは、「議員としての心構えを改めて見つめ直す機会となった」、「コロナ禍の反省、対応のあり方、振り返ることの大切さに気が付かされた」、「非常事態時の議会機能確保をどうするのか、大変勉強になった」、「議員間討議を今後行うことで方向性が見えてくる。政策提案できる質の高い議会にしたい」などの感想をいただきました。



廣瀬 克哉氏



大山 礼子氏

続いて、「女性・若者の参画が政治を変える」と題して、駒澤大学法学部教授の大山礼子氏から、日本の政治の現状、多様な人材の必要性、多様性のある地方議会を実現するために取り組むべきこと、選挙制度の課題等についてご講演いただきました。参加者からは、「いかに日本があらゆる点で遅れているかが分かった」、「海外事例など踏まえており、わかりやすく良かった」、「データが多く非常に面白かった。興味深かった」、「やはり議会においては女性の意見等、女性視点での政策は必須」、「当市は、青年、女性の新人によりムードが変わった」、「選挙制度改革に関心が持てた」などの感想をいただきました。

2日目は、まず、「サーキュラーエコノミーの実現と自治体の役割」と題して、公益財団法人日本生産性本部コンサルティング部エコ・マネジメント・センター長の喜多川和典氏から、サーキュラーエコノミー政策の背景、各国企業の実績、導入アイデアや自治体の支援等についてご講演いただきました。参加者からは、「意義深い取組みと思う。これらをベースとした施策展開、まちづくりに活用できればと思う」、「自治体の取組みの重要性にも気づかされ、日本の今後の遅れが無いよう、私たちが考え方を変えなければならない」、「3Rの概念を超えた取組みを知った」、「環境に対するSDGsから生まれるビジネスは勉強になった」などの感想をいただきました。



喜多川 和典氏



湯浅 壘道氏

最後に、「議会のデジタル化をどう進めるか」と題して、明治大学公共政策大学院教授の湯浅壘道氏から、議会のデジタル化の意義、議事手続のオンライン化とデジタル社会形成基本法、議会のDX化の実例、デジタル化の進め方等についてご講演いただきました。参加者からは、「先端の事例や法律改正を含めて、分かりやすく得るものが多い講義だった」、「考え方（特にトラブル時）の切り替えが大切だと感じた。デジタル化は便利な面もあるので可能性を広げていきたい」、「やりやすい所からとりあえず始める、という方法論は役立つ」、「直接関わる具体例が多く参考になった」、「デジタル化の将来のイメージが持てた」などの感想をいただきました。